

# 平成 30 年度 環境に関する市民・事業者の意識調査結果 概要

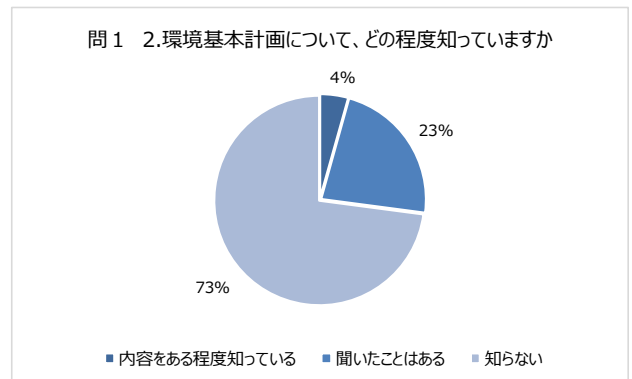
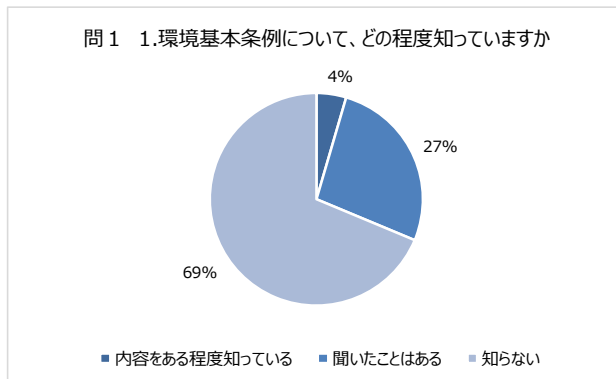
## 1 Web アンケート調査【平成 30（2018）年 9 月】

環境基本計画の認知度、取組の進捗、「環境・経済・社会の統合的向上」に向けた重要な取組等について、市民意識を把握するため、川崎市在住の 18 歳以上の市民を対象として、Web アンケート調査を実施し、1,573 サンプルを回収した。

アンケート設問のうち、「環境基本条例・環境基本計画の認知度」については、約 7 割の市民に認知されていない状況にあった。また、「環境の各項目に関する近年の改善傾向・市が行う取組の状況」においては、どの項目についても、「わからない」という回答が 3～4 割に上り、改善傾向や市の取組が十分に認識されていないことが示唆されており、情報発信の更なる充実などの課題があるものと考えられる。なお、「地球温暖化問題」に関しては、「悪化した・取組が遅れている」という評価が 26.4%と、他の項目と比較して非常に高かった。環境に関する「取組の優先度」については、大気汚染、廃棄物問題、地球温暖化問題の順に、「最優先に取り組むべき」という回答が多くなっていた。

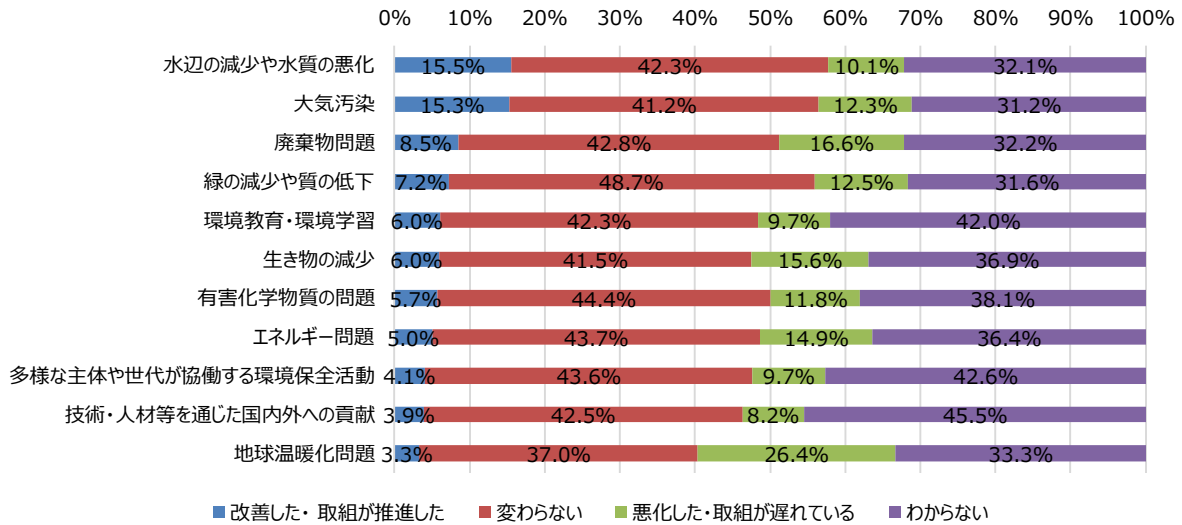
また、今後の環境施策については、環境に係る取組を通じ、産業振興や防災対策、健康維持などといった経済・社会の多様な課題の解決にも貢献すること（環境・経済・社会の統合的向上）が重要であるとされている。「環境・経済・社会の統合的向上」に向けた取組のうち特に重要であるものといった設問においては、気候変動の影響への適応、再生可能エネルギーの導入、エネルギーの最適利用といった、環境・エネルギー問題の直接的な解決を図る選択肢が上位に挙げられた。これは、震災や台風等の影響もあり、災害や異常気象等への対応について関心が高まっていることが一因にあるものと思われる。

### 【環境基本条例・環境基本計画の認知度】



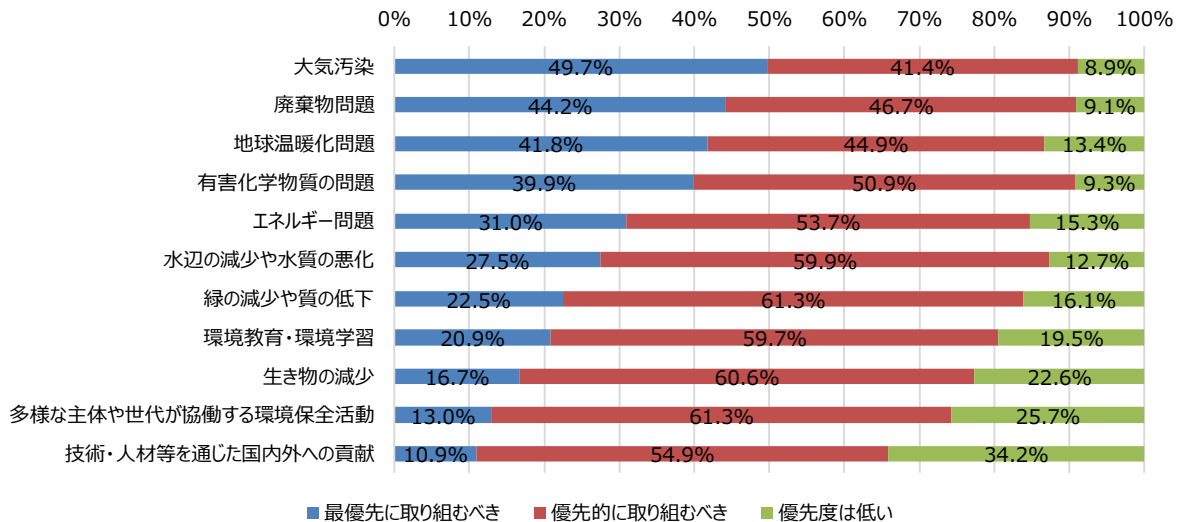
## 【環境の各項目に関する近年の改善傾向・市が行う取組の状況】

問2-2 近年の改善傾向・市が行う取組の状況の評価



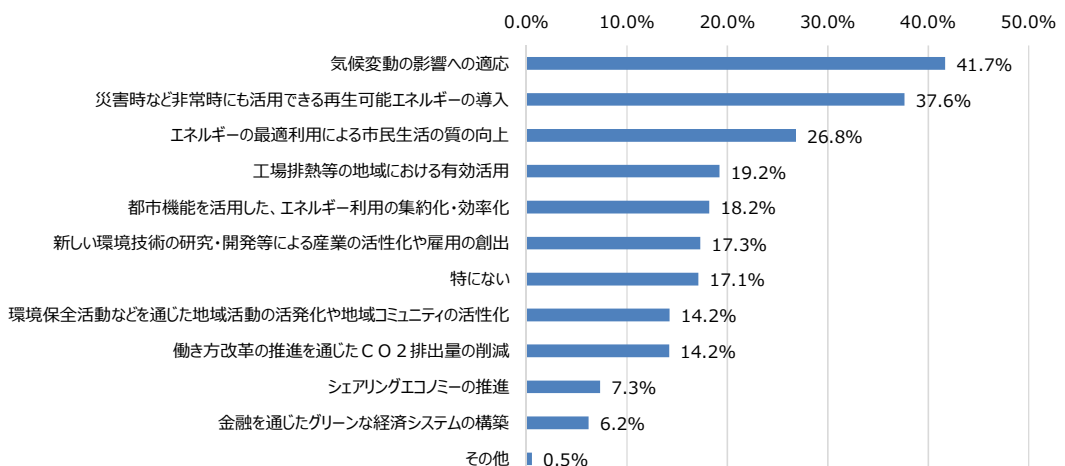
## 【取組の優先度】

問2-1 取組みの優先度



## 【「環境・経済・社会の統合的向上」に向けた重要な取組】

問5 環境・経済・社会の統合的向上を図るため、特に重要と考える取組



## 2 ワークショップ等

「2050年の川崎市の姿」から、川崎市の環境施策のあり方や、各主体が果たすべき役割などの意見聴取を行うとともに、市民・事業者と「未来の川崎の環境」への共創の機運を作るため、次のとおりワークショップ等を実施した。

### (1) 実施概要

#### ア 市民

##### (ア) ごみゼロカフェ【ワークショップ】

比較的環境に関心が高いと思われる層をターゲットに意見聴取を行うことを目的として、「ごみゼロカフェ」（ごみの減量化・資源化をより推進するため、さまざまな年代の市民や事業者など多様な主体が意見交換する場）で実施

日 時：平成30年12月15日（土）14時～16時

場 所：高津市民館 第5会議室

参加者：20名

##### (イ) 地球温暖化防止活動推進員研修会【ワークショップ】

地球温暖化や緑の保全、生物多様性、ごみの減量化・資源化、環境教育・環境学習など、環境の様々な分野で活動されている方々からの意見聴取を行うことを目的として、幅広い分野で活動されている地球温暖化防止活動推進員の研修会で実施

日 時：平成31年1月13日（日）14時～16時

場 所：高津市民館 第6会議室

参加者：23名

#### イ 事業者

川崎市内の事業者から意見聴取を行うことを目的として、企業で構成される法人・団体に協力を呼びかけ、定例の会議や研修等を活用し実施した。

##### (ア) NPO法人 産業・環境創造リエゾンセンター【ワークショップ】

日 時：平成30年11月6日（火）15時～17時

場 所：川崎市産業振興会館 12階会議室

参加者：16名

##### (イ) 川崎コンビナート環境保安技術研究会【ワークショップ】

日 時：平成30年11月22日（木）15時～17時

場 所：川崎市役所第4庁舎 第4・5会議室

参加者：13名

##### (ウ) 一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会【グループインタビュー】

日 時：平成30年12月26日（水）15時～16時

場 所：川崎市産業振興会館 12階会議室

参加者：12名

(2) プログラム内容

ワークショップ等については、市側から 2050 年の社会像に係る様々なデータなどを情報提供した上、2050 年の社会がどのように変わっているか、環境に関してどのような課題があるかなど参加者が意見を出し合った上、どのような取組が必要となってくるかなどアイデアを出し合い、最終的には新たな計画におけるめざすべき環境像のキャッチフレーズをグループでまとめて発表した。

	項目	内容
1	2050 年の社会像	国や市の各種計画やデータ等を踏まえて、2050 年社会像に関する情報提供し、共有
2	2050 年の川崎市の姿	1で得られた社会像を踏まえて、環境に限らず、2050 年の自分の生活や仕事、周囲の状況がどうなっているかなど、付せんなどを用いて沢山のアイデアを出し合う手法(ブレインストーミング)等を用いながら、各グループで 2050 年の川崎市の姿のイメージを作成
3	めざすべき環境像 (キャッチフレーズ)の 作成	2で考えた 2050 年の川崎市の姿から見えてきた様々な環境要素について、1つテーマを決め、どのような課題が考えられるか、市民・事業者はどのような取組が必要か、自分は何ができるかなど、アイデアを出し合い、最終的に設定したテーマに即しためざすべき環境像(キャッチフレーズ)をまとめ、全体に発表

※グループインタビューでは、情報提供後、2050 年の社会像や課題、取組の方向性などについてインタビュー形式で意見を聴取

(3) ワークショップ等における主な意見内容

参加した市民・事業者からは、主なものとして次のような意見が出されており、それぞれが大切であると考えた川崎市の環境の様々な姿が示されていた。

ア 2050年の川崎市の姿（2050年の社会に起こりうる変化・課題）

分野	主な意見
社会全体	<ul style="list-style-type: none"><li>・人口減少、高齢化、外国人の増加</li><li>・キャッシュレス社会</li><li>・不動産も含め、様々なモノが個人所有ではなく共有する時代に</li><li>・モノのインターネット化、バーチャル・リアリティと現実の融合</li><li>・宇宙旅行が日常的に</li><li>・交通体系の変化<ul style="list-style-type: none"><li>自動車の自動運転の実用化</li><li>ドローンの普及、空を飛ぶ自動車の実用化</li><li>交通体系の変化に伴い、街並みも変化</li></ul></li><li>・働き方の変化<ul style="list-style-type: none"><li>職場がなくなる・在宅勤務が当たり前</li><li>定年がなくなる</li><li>3Dプリンタの普及</li><li>ネットショッピングの普及・店舗がなくなる</li><li>AI・ロボットの普及により人の働き方が大幅に変わる</li></ul></li></ul>
地球温暖化	<ul style="list-style-type: none"><li>・CO<sub>2</sub>排出量の増加、地球温暖化の進行</li><li>・異常気象の増加で、居住地も変わる</li><li>・エネルギーの不足・使用制限、価格の高騰</li><li>・化石燃料の枯渇・使用禁止</li><li>・暑さにより外出できなくなる</li><li>・四季がなくなる</li><li>・海面上昇</li></ul>
自然共生	<ul style="list-style-type: none"><li>・緑が減少する、景勝地が減少する</li><li>・生物多様性の減少</li><li>・ペットや外来種が野生化し、固有種がいなくなる</li><li>・農家・農地の減少</li><li>・絶滅する生物が増える</li><li>・ほたるの環境が保てなくなる</li><li>・里山の保全ができなくなる</li><li>・人口減少によりボランティア活動者が減る</li></ul>

分野	主な意見
資源循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の増加によるごみ出し問題やごみ質の変化（おむつの増加など）</li> <li>・資源輸入が困難になる</li> <li>・人口減少によりごみの収集システムの維持が難しくなる</li> <li>・最終処分場が不足する</li> <li>・ごみ出しが楽になり、ごみに対する市民の意識が下がる</li> <li>・ソーラーパネルのリサイクルやロボットの廃棄など新たなごみ問題が生じる</li> </ul>
大気や水などの環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな汚染物質が生じる</li> <li>・大気に関する基準が工場だけでなく一般家庭にも適用</li> <li>・大気中の N<sub>2</sub> 濃度の増加・O<sub>2</sub> 濃度の減少</li> <li>・乗り物に対する規制がさらに進む</li> <li>・水源が減少する</li> </ul>

イ めざすべき環境像（方向性）

分野	主な意見
地球温暖化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートなまち</li> <li>・企業とコラボした「一つ先のミライブランド」かわさき</li> <li>・先端技術でクリーンエネルギー都市型地産地消のまち</li> <li>・か「環境技術を」 わ「私たちと市民で」</li> <li>さ「先がけて展開して」 き「きれいなまちに」</li> <li>・温暖化を楽しむまち</li> <li>・CO<sub>2</sub>を吸収するまち</li> <li>・スマートライフシティの実現</li> <li>・水素バス、水素トラックがはしるまち</li> <li>・すべてのエネルギーが脱炭素でまかなわれているまち</li> </ul>
自然共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旬（四季）が感じられるまち</li> <li>・産業（工業）と自然が調和するまち</li> <li>・人、モノ、環境が触れ合うまち</li> <li>・“ストレスレス” ないやしのまち</li> <li>・緑に囲まれたまち 緑色のまち</li> <li>・緑が多いまち</li> <li>・人と自然にやさしいまち</li> <li>・里山の再生・保存</li> </ul>

分野	主な意見
資源循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみに「意識高い系」川崎市</li> <li>・ごみゼロ！！なまち</li> <li>・廃棄物というコトバが無いまち</li> <li>・ごみが金になるまち</li> <li>・ごみになる物を売っていないまち</li> <li>・ごみは資源！</li> <li>・「循環資源」社会の実現</li> <li>・プラスチックの使用量が世界一少ないまち</li> <li>・ごみ収集車が走っていないまち</li> </ul>
大気や水などの環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虹色のまち</li> <li>・一人ひとりが環境保全にとりくむまち</li> <li>・技術革新で環境悪化を防ぐまち</li> </ul>
環境全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害にも強いまち</li> <li>・みんなで楽しく価値観を共有するまち（無理強いしない）</li> <li>・孫にやさしいまち</li> <li>・世代間（世代を超えて）の交流活発なまち</li> <li>・科学技術で環境問題に立ち向かうまち</li> <li>・人と人がつながる社会</li> </ul>

#### (4) エネルギー・環境子どもワークショップ

ワークショップ等とは別に、市内の小学校を中心に、中学校なども含めて20校程度が集まり、日頃の環境に関する取組や学習について発表し学び合う「エネルギー・環境子どもワークショップ」で、将来を担う子どもたちから、川崎市の環境に関する意識把握を行うことを目的として、次のとおり意見聴取を実施した。

日 時：平成31年2月9日（土）9時～11時

場 所：大戸小学校 体育館

内 容：2050年（約30年後）をイメージして、「川崎市の環境をこうしていきたい！」

という具体的な姿や取組について、ポストイットに記載してもらい意見聴取

意見数：117件（小学生 106件 大人 11件）

同ワークショップでは、次のような意見が子どもたちから出された。

分野	主な意見
地球温暖化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネや分別に心がける。</li> <li>・エコをして二酸化炭素を減らしたいです。</li> <li>・世界中の人が地球温暖化を防ぐ努力をしている。</li> <li>・川崎市をエコや、環境を守るような町にする！</li> <li>・川崎の CO<sub>2</sub> を最小限にする。</li> <li>・地球温暖化の進行が遅くなって、気温が高すぎないようにしたい。</li> <li>・緑が多く、氷がとけたりしない涼しい町になってほしい。</li> </ul>
自然共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川崎市を緑や生き物のあふれたまちにする。</li> <li>・自分の家でも自然がある。</li> <li>・木がたくさんあって、動物がいっぱいいる町で、気持ちいい町にしたい。</li> <li>・ビオトープをもっと増やしたほうがいいと思う。</li> <li>・いまと変わらないでほしい。</li> <li>・市北部だけでなく、市南部の臨海地域にも木が増えてほしい。</li> <li>・緑が失われてなく、生き物も暮らせる、環境。</li> </ul>
資源循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今よりごみの捨てる量が減っている。</li> <li>・ごみが全てリサイクルできる技術。</li> <li>・僕たちはむだにごみをだしているので、一人くらいならいいと考えるのではなく、一人一人が気をつけないといけないという気持ちの世界にしたい。</li> <li>・今よりごみが減っていて、快適に暮らせる川崎がいい。</li> <li>・ポイ捨てが×！道にごみが落ちていない！</li> <li>・ごみ処理場の数が減っていてほしい。</li> <li>・ごみがゼロになってほしい。</li> </ul>
大気や水などの環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空気や水は澄んでいてすきとおっている。</li> <li>・川崎市に工場がいっぱいあっても空がきれいなまちにする！</li> <li>・水はきれいで、汚染で汚くならないでほしい。</li> <li>・とてもきれいで魚など生き物が生きやすくなってほしい！</li> <li>・きれい（リラックスできる）な空気をエコで作る！</li> <li>・約 30 年後には、空気、水がきれいな川崎市がいいです。</li> <li>・どこでもきれいな空気で、安全な水がのめる未来。</li> </ul>